

## 第4次小浜市食育推進計画(案)に関する市民パブリックコメントの結果

- 意見の募集期間 令和4年2月8日～3月1日  
 ○意見数 提出者3名(提出意見のべ8件)

### 【提出された意見の概要および市の考え方】

番号	意見(原文のまま)	意見に対する市の考え方
1-1	<p>小浜市の食のまちづくりは20年前に始まったことが素晴らしい。人間が生きていくために何が大切か、人は良い食育によってバランスのとれた健康な身体が維持される。身土不二のもと地産地消の推進を基本に立派な食文化館が完成したことは小浜市民の健康を守り食育によるまちづくりへの意気込みを感じる。</p>	<p>本計画においては、「I-1-1 望ましい食生活の実践や地産地消の推進」をはじめ、「I 個人に対する食育」では、地産地消や健康に関する事項を明記しており、食文化館や健康管理センター、公民館など、各世代が関わりやすい機関で推進することとしています。</p>
1-2	<p>開館を契機に「キッズ・キッチン」は市内全園年長児対象に”料理で学ぶ子”を開始。地産地消を基本とした給食。園児における食べ残し量0%おいしい、好きと感じる児童生徒は70%。生産者が地域の学校へ行き顔を見せ、子供たちと語り楽しい給食タイム。20年間のこの実践は児童生徒たちがすでに成人となり世の中に存在するということである。大人になり飽食と病気の関係を知ったとき、きっと小浜の「キッズ・キッチン」での貴重な体験を思い出し幼児、学童期の食生活が一生の身体作りにも影響し果ては成人病にもなりかねない事を自覚。食の大切さを改めて考え、知識を得、自ら健康な身体づくりを実践して行ってほしい。これが真のひとづくり、まちづくりと思う。</p>	<p>本計画においては、「I-2 妊産婦や乳幼児に対する食育の推進」や「I-3 小学生(児童)・中学生(生徒)に対する食育の推進」で子ども達の食育について明記しております。あわせて「I-4 若い世代に対する食育の推進」「I-5 壮年期(40歳～64歳)の市民に対する食育の推進」において、選食力およびフードリテラシーの向上に努めることとしており、各世代に応じた食育事業の推進に努めてまいります。</p>

1-3	<p>これまで様々なイベントがあり地道に関わられた多くのスタッフがおられ、次のスタッフの育成もされているとのこと。小浜の食育は日本一誇れる、素晴らしいまちである。社会は変化し家庭で食事を作る人も多忙と思うが、今一度家庭の食生活を振り返り、本当の健康とは？食とは？考えるきっかけが得られる事が大切である。家庭の中、教育現場においても心身ともにバランスのとれた健康な子供たちを育てられるよう、周りの人びとを自分の事のように真剣にかかわり続けて頂きたいと思います。</p>	<p>本計画においても、食育の原点は家庭にあると考えており、「I-1 家庭における食育の推進」で市民一人一人の選食力やフードリテラシーの向上に努めることとしております。</p>
1-4	<p>2月27日福井新聞にウェルビーイングの記事が掲載されてました。食のまちづくり5年先が楽しみである。</p>	<p>新聞記事を寄稿された高野翔氏は今年度より小浜市食育推進会議の委員として、本計画策定に助言をいただいております。</p> <p>計画に基づき、めざすべき将来像の実現に向けて取り組んでまいりますので、ご理解ご協力をお願いいたします。</p>
2	<p>小浜市の食育の素晴らしさを教わり、とても誇りに思っています。</p> <p>実際、この地の「キッズ・キッチン」で学び、地産地消の給食をいただき、親子で食べ物に関するあらゆる分野を学んだ子供たちの成長ぶりが楽しみです。その成果として、小浜のあちこちで活躍している高校生たちもそうでしょうし、健康的で自立心に富んだ青年に育っている事と思っています。</p> <p>ただ、何事も全員が満たされる訳にもいかないのが現実ですので、今後は、忙しい親御さんに育てられる</p>	<p>本計画では、生涯食育として世代に応じた食育事業を展開することとしています。</p> <p>特に、子ども達に対しては郷土への誇りや、自己肯定感の獲得をめざしております。</p> <p>ご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>

	<p>子供たちが、家庭内でも栄養や季節感のある生きた食材が使われる食事にありつけるよう、何とか考えていただけたらと思います。</p> <p>給食の内容等も、若いご両親自身が関心を深め、一緒に考え希望を出せる状況を深めていけるよう、子供たち自身も身体と栄養の関係を自らの問題として、実践出来る大人になれるよう、土台作りのできる小浜を望んでいます。</p> <p>一人でも多くの子供たちが小浜で育ったことが幸いになりますように。</p>	
3-1	<p>市民の隅々まで「食のまちづくり」を理解してもらう事。食はこの世に生を受けてから終えるまですべての人に関わる事、よい取り組みをまず市民に知らせる方法を考える。</p> <p>広報誌もあるでしょうが、いまの時代スマホなどを利用して例えばlineで情報が届くといいです。(福井県からは定期的にlineが入ってきます)</p>	<p>本計画の内容や今後の取組みにつきましては、広報誌やSNS、ケーブルテレビなど多様な手法を用いて、どの世代の市民の皆様にもご理解、参画していただけるよう努めていきたいと考えております。</p>
3-2	<p>市長にエプロン姿で郷土の素材を使った料理教室に参加してもらい、ニュースザウルスを始め全国ニュース、YouTubeなどで「食の小浜」を宣伝する。</p> <p>(今、テレビでは食関連のバラエティー、食レポが多いです。それと男性のエプロン姿もよく見ます)。</p>	<p>本計画では、「I-4 若い世代に対する食育の推進」「I-5 壮年期(40歳~64歳)の市民に対する食育の推進」ならびに成人男性全般を意識しながら、市民全体の選食力およびフードリテラシーの向上に努めることとしております。</p> <p>そして、そのような取組みの様子については、映像などにより市民の皆様にも広く周知を行い、身近なものとして関心を深めていただけるよう、努めてまいります。</p>

3-3	<p>市民キャンペーン「毎日一杯の味噌汁」を食べよう運動はどうでしょうか</p> <p>食文化館が中心となって、具材は小浜市の海、里山のもの、手作り味噌等を使う。簡単で日本の基本料理だからこそ、今の時代に貴重です。</p> <p>そして、味噌汁コンテストなどをして、優勝者の味噌汁は「小浜汁（オバマスープ）と命名、今後市内飲食店で出してもらい観光客にアピールする。小浜地産の具いっぱい味噌汁（スープ）を全国区の名物料理にしてください。</p>	<p>本計画では、「Ⅱ 地域経済のための食育」において、観光や地産地消、地域内経済循環などを明記しており、市民の健康に加えて、地域経済に関することについても取り組むこととしております。</p> <p>具体的なアイデアをいただきましたので、今後の事業展開の参考にさせていただきたいと思います。</p>
-----	---	---